

2025(令和7)年度 ヒグマの出没状況および特記事項について

1. ヒグマ目撃・対応件数等

令和7年4月1日～12月31日分

	斜里町	羅臼町	標津町	合計
目撃件数	1179 (1081) 件	178 (116) 件	96 (44) 件	1453 (1241) 件
対応件数	856 (654) 件	221 (129) 件	99 (53) 件	1176 (836) 件
人為的死亡数	46 (18) 頭	25 (4) 頭	16 (9) 頭	87 (31) 頭
内訳				
有害捕獲	35(18)	23(4)	8(6)	66(28)
狩猟	11(0)	2(0)	6(1)	19(1)
春期管理捕獲	0(0)	0(0)	2(2)	2(2)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

※ ()内は前年度同期(令和6年4月1日～12月31日)の数値
対応件数は電気柵の維持管理作業等を除く

【ヒグマ目撃・対応件数】

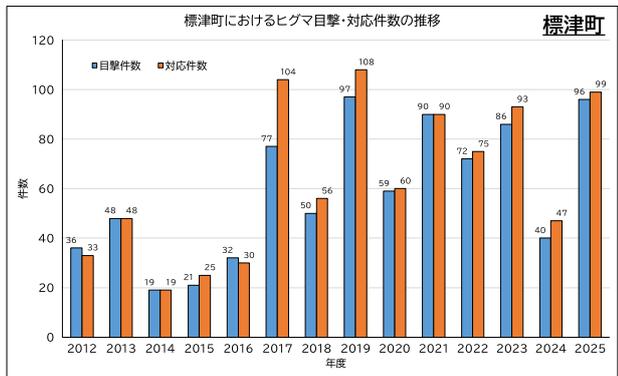
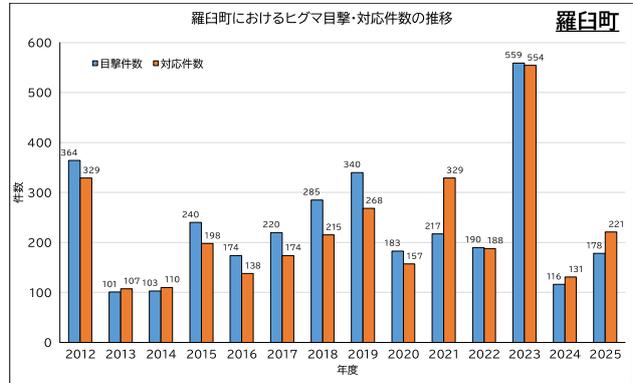
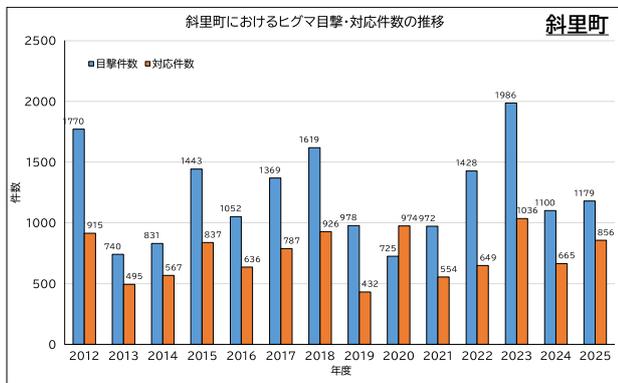


図1. 町別のヒグマ目撃・対応件数の推移(2012-2025年度)

※ 2025年度は12月末時点の数値

【市街地（ゾーン4）ヒグマ出没件数】

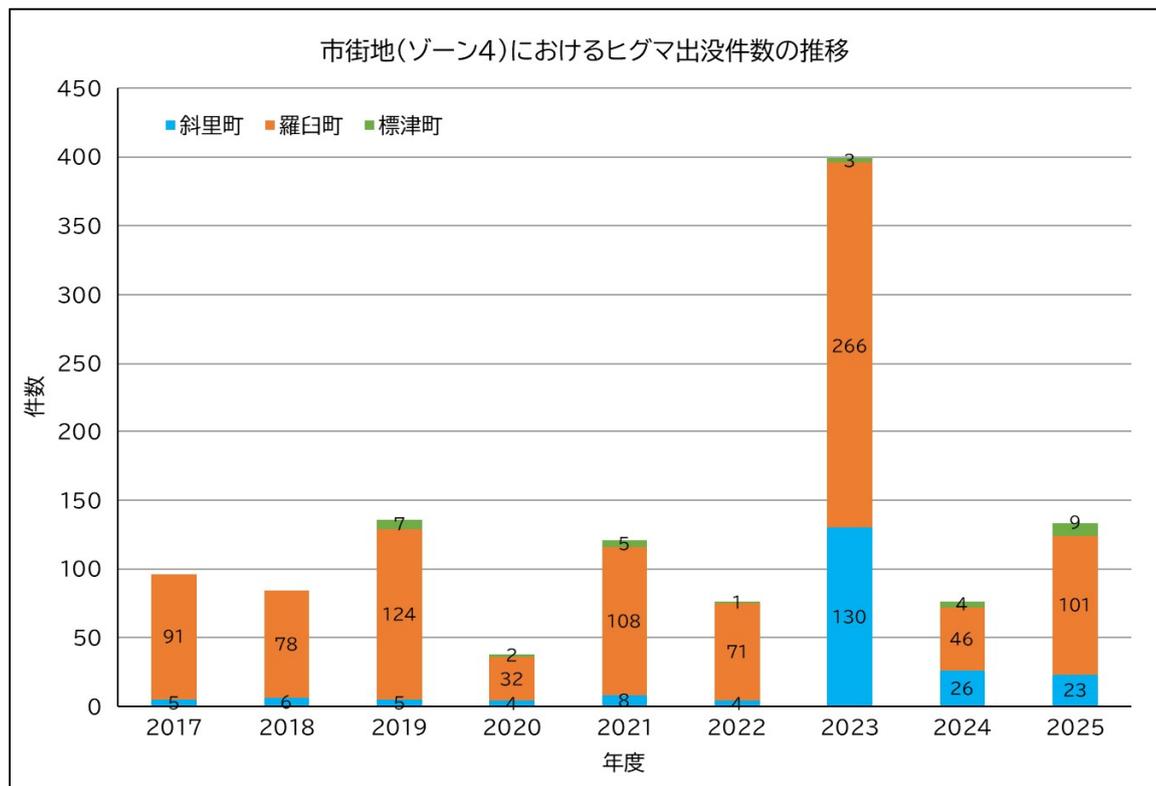


図 2. 市街地（ゾーン4）ヒグマ出没件数の推移（2017-2025 年度） ※2025 年度は 12 月末時点の数値

【ヒグマ人為的死亡数】

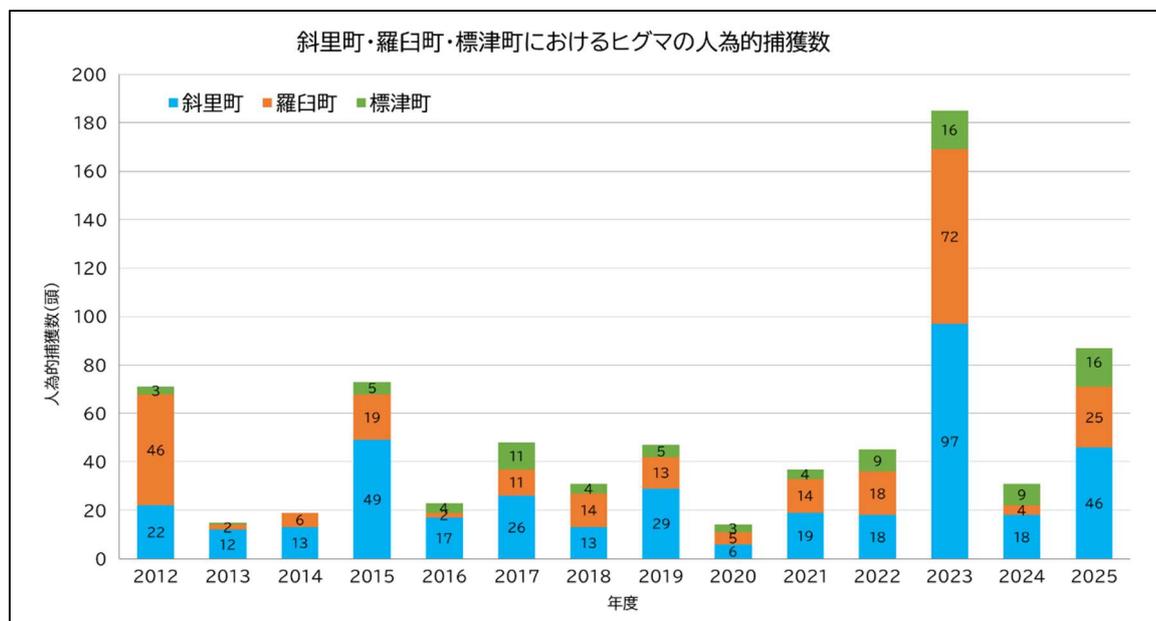


図 3. ヒグマ人為的死亡数の推移（2012-2025 年度）

※2025 年度は 12 月末時点の数値

2. 主なトピック

- ・ ヒグマの目撃件数および対応件数について、3町ともに増加した。
- ・ ヒグマの人為的死亡数も3町とも前年度より増加した。また、3町の合計で87頭となり、大量出没のあった2023年度の185頭に次ぐ、過去2番目に多い結果となった。
- ・ 8月14日に羅臼岳登山道（岩尾別コース）にてヒグマによる人身事故が発生した。

3. 各町のヒグマ出没・対応状況

【斜里町】

- ① 斜里町におけるヒグマ目撃件数は12月末時点で計1,179件、対応件数は856件となった。両件数とも前年度から大幅な変動はなかった。
- ② ウトロ市街地周辺でのヒグマ出没について、管理計画の改定により昨年度から拡張されたゾーン4（市街地周縁部）での出没件数は増加したが、電気柵内の市街地核心部でのヒグマの出没が確認された件数は実質2件と僅少であった（うち1頭は有害捕獲）。
- ③ 斜里市街地でのヒグマ出没について、ヒグマ目撃情報は数件あったが、いずれも明確なヒグマの痕跡はなく、シカ・野犬・人等をクマと誤認した可能性が高いと判断され、今年度斜里市街地に侵入したヒグマは0件となった。ただし、周辺の農地ではヒグマの出没が相次ぎ、32頭のヒグマが捕獲された。
- ④ 知床五湖について、例年ヒグマの出没が多いヒグマ活動期（5～7月）のヒグマ目撃件数が9件と過去最少件数であった。ただし、以降は複数組のヒグマの出没が確認され、秋期にはヒグマの出没が連日確認され、地上遊歩道が常態的に閉鎖される状況となった。
- ⑤ 8月14日、羅臼岳登山道（岩尾別コース）の560m岩峰付近において、下山中の登山グループ（2名パーティ）のうち1名がヒグマに襲われ死亡する事故が発生した。翌日の捜索活動において、登山道近傍の林内で被害者に接触している0歳2頭連れ親子のヒグマが発見され、その場で有害捕獲された。被害者の遺留品等に付着したヒグマの体毛及び唾液から検出されたDNAと、捕獲個体のDNAが一致した。現在、知床ヒグマ対策連絡会議による事故原因の検証及び再発防止策の検討を進めている。
- ⑥ 8月以降、知床峠駐車場及び周辺道路において、複数組の0歳2頭連れ親子のヒグマが出没を繰り返し、駐車場利用者や通行車両がヒグマと至近距離で遭遇する危険事案が度々発生した。これを受け、8月22日から9月4日まで知床峠駐車場が閉鎖され、各関係機関によるパトロールも行われた。閉鎖期間中には、周辺道路の付近にて出没を繰り返していたヒグマ個体1頭が有害捕獲された。
- ⑦ 8月26日、半島基部の日の出地区の国道において、亜成獣サイズのヒグマ1頭が通行車両と衝突する事故が発生した。衝突車両に付着した体毛のDNA分析結果から事故個体は特定されたものの、当該個体は事故発生時に逃走したため、その後の動向は不明となっている。
- ⑧ 秋期の岩尾別川沿いにおいて、改正公園法に基づく環境省の指導、関係機関によるパトロール、監視カメラの設置等により、カメラマン等の待ち伏せ行為を一定程度抑制できている成果もあり、利用者の問題行動による危険事例の発生状況は例年と比べ減少の傾向となった。一方で、意図的にヒグマへの接近や近接撮影を行う一部の悪質な利用者への対応については課題が残った。
- ⑨ 10月16日、知床五湖付近の道路上にて0歳2頭連れ親子のヒグマが車両に手を掛ける事案（行動段階2）が発生した。8月以降、当該個体は道道沿線に出没を繰り返し利用者との軋轢が度々生じていた。その後、当該個体は岩尾別地区にて有害捕獲された。

【羅臼町】

- ① 羅臼町におけるヒグマの目撃件数は、12月末時点で178件、対応件数は221件となった。いずれも昨年度の目撃・対応件数より増加し、特に8月下旬からは市街地（ゾーン4）での目撃、痕跡の確認が増加。
- ② 市街地（ゾーン4）へのヒグマの侵入件数は、目撃を伴うものが78件、痕跡のみのもものが23件で、計101件であった。前年同日の累計は46件（目撃：35件、痕跡等のみ：11件）であった。国道や道道付近や道路を横断しての出没も多く、7月にはゾーン4の国道上でシカを捕まえたヒグマが国道のすぐ脇で捕食を続けるという事案もあった。
- ③ AI検知システムを搭載した自動撮影カメラの設置による警戒および出没時の即応性向上、ドローンによる捜索の効率化、安全面の強化を図った。また追い払いにも活用しており、木に登ってしまったクマに対して、ドローンからの犬の吠え声の拡声と花火弾を用いて安全かつ効率的に追い払いが実施された。
- ④ 6月から8月にかけて、知床峠駐車場周辺（特定管理地）において複数組の0歳2頭連れ親子グマの出没が頻発し、8月22日午後6時より同駐車場および展望台が閉鎖となった。このことを受け、一般利用者に対する注意喚起や路上駐車の指導を目的として、関係機関によってパトロールを実施した。
- ⑤ 9月以降、ゾーン4の住宅倉庫や水産加工施設で、窓ガラスの破壊や残渣を荒らされる事案が相次いだ。このうち加害個体のオス成獣は1頭有害捕獲（9/15）されたが、それ以外にも1頭連れ親子の加害個体が確認されており、捕獲に至っていない。
- ⑥ 町内会主催（協力：羅臼町役場、知床財団）でヒグマ対策町内会草刈りを実施。8町内会（その他、3町内会の実施を予定していたが雨天中止）において、計91名の参加者と共に過去にヒグマが出没した地点やフキが繁茂している箇所を中心に草刈りを実施。

【標津町】

- ① 市街地（ゾーン4）におけるヒグマの出没（痕跡情報を含む）は、12月末時点で累計9件（前年同期は累計4件）となっており、市街地（ゾーン4）へのヒグマの侵入は昨年より多い結果となった。
- ② 農村地区（ゾーン3）でのヒグマの出没が多数あり、親離れしたばかりと思われる若い個体がたびたび目撃され、有害駆除を実施した。
- ③ 町内全域で、親子連れ個体、亜成獣と思われる個体や兄弟クマなど、比較的若い個体が多数繰り返し出没しており、特に川北市街地周辺では次から次へと個体が流入している状態が続いていた。要因として推測されることとしては、中標津武佐地区から標津川北地区に続くデントコーンに誘引された個体が流入してきているものと考えられる。5月に駆除した個体は、昨年刈残したデントコーンを捕食していた。
- ④ 海岸漂着したトド死骸が起因となり、付近の番屋や住宅近くでたびたび目撃され、有害駆除を実施した。
- ⑤ 相変わらず町内北部の海岸にトドの死骸が多く漂着し、それに誘引されたと思われる個体が出没していた。6月に駆除した個体は、薫別市街地に出没し、その後崎無異で駆除した。周辺では、トドの死骸が確認され、駆除後に処理した。
- ⑥ 12月末現在、標津町内では最大値を記録した2023年以上の目撃件数となり、駆除頭数は同数となった。
- ⑦ 5月15日に、標津中学2年生と川北中学1年生に対してヒグマ学習を実施した。
- ⑧ 7月9日に川北小学校1・3・5年生に対して、7月15日に標津小学校1・3・5年生に対してヒグマ学習を実施した。